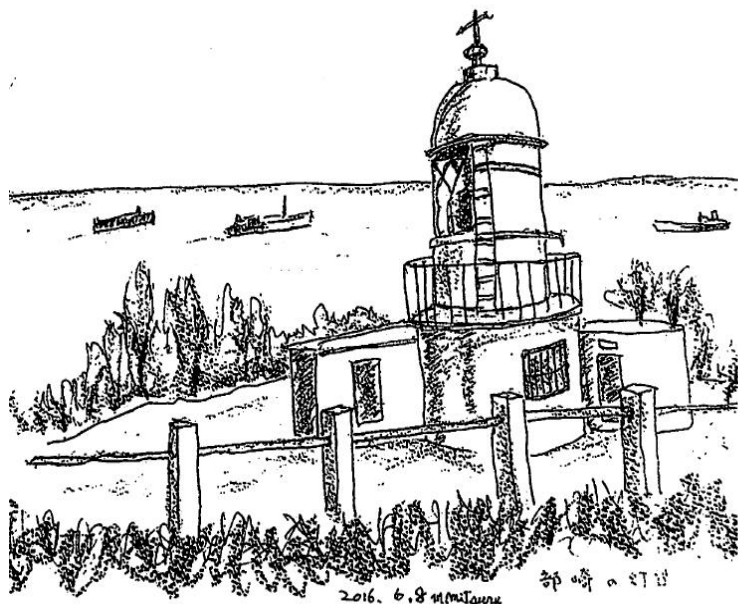


週報2021年9月12日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書43章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2021年9月12日

(オンライン礼拝) HP アドレス：<http://jesus.holy.jp/>

祈祷	開会の祈り
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	コーラス 13「あなたの愛の力で」
祈祷	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！ *
聖書朗読	ヨハネによる福音書 5 章1-9 節
説教題	「床の上から御言葉の上へ」
祈祷	御言葉の応答の祈り
祈祷	祝福と派遣の祈り

交わりの三省

- * 互いに愛し合っていますか
- * 互いに赦し合っていますか
- * 互いに祈りあっていますか

説教要約

ヨハネによる福音書 5 章 1－9 節

「床の上から御言葉の上へ」

①憐れみの家

ベテスダとはヘブル語で「憐れみの家」という意味があります。しかし実際の池を取り巻く状況は憐れみとは程遠い状況にありました。この池には言い伝えがあり、池の水がかき回された時(※おそらく間欠泉が噴き出す時)真っ先に水に入る人は癒されたそうです。我先にと病者の間で競争が起こっていました。38 年間病気に苦しんだ人は彼らの間に在る競争に敗れ、伏していました。

この病者がイエス・キリストに出会い、本当の憐れみを受ける。これがベテスダの池の奇跡です。イエス様と病者の会話はかみ合っておりません。ここからわかる彼の心は“失望”です。イエス様が彼のもとにやってきたのは、永遠に変わらない希望を与えるためです。その希望とはイエス様が魂を憐れみ、ずっと生涯を共に歩き、傷ついた心、渇いた心を癒すことです。癒しの奇跡は憐れみの主に心を向ける事から始まります。

イエス様は失意の中にある彼に対して、「起きよ」と命じます。これは“憐れみの主、寄り添われる神にあなたも心を沿わせていきなさい”という意味です。私達は重たい問題や厳しい環境によって人生の活路が閉ざされたように感じます。しかし私達には寄り添われる神が共におられます。これが憐れみです。私達はまずどうになりたいか正直に神に打ち明ける必要があります。その時から、希望の道が開かれて行きます。私達の憐れみの家とは、祈りです。祈りによって神の宮に進み、真の憐れみを受けます。

②床の上から御言葉の上へ

38 年間病気だった人が陥った状態は“言い伝えに縛られた”ことです。つまり彼はイエス様の言葉よりも言い伝えに重点を置いていました。ですから、彼にとつての“慰め”とは言い伝えに従える自分。そして逆に“惨めさ”とは言い伝えに従えない自分です。例を一つ挙げると「他の人よりも健康ではないので、だから私は癒されない」と彼は思いこんでいました。イエス様が来たのは、彼が縛られているものから解放するためです。

この出来事(ベテスダの奇跡)の後、安息日の話が出て来ます。律法学者はイエス様を律法違反者として非難します。しかし律法学者達も又、神の言葉ではなく規律や言い伝えに縛られていました。イエス様のもたらす解放とは、恵みによって人々を自由にする事です。そこには価値観の変革があります。つまり、それは条件によって与えられる愛ではなく、無条件の愛の中で生かされる事です。神の愛に背を向けた世に対して愛(すること)を貫き通したイエス様。この愛が人を自由になると、聖書は語っています。

人は自由を求めて、かえって不自由になる事があります。私達が素直に主に求めないで、つぶやくのは満たされていないからです。永遠の命を与える為にこの世に来られたイエス様の愛。これが私達の心を満たし、自由にされる唯一の道です。イエス様が語る、「床を取り上げなさい」とは＝自らを縛りつけるご利益信仰を離れ、御言葉(愛)の上を歩きなさいという意味です。これが真理であり、真理は人を自由にします。

③御言葉の上を歩く

実は今日の話の最大のポイントは病人が癒された理由です。イエス様が「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」と言った後、この男は直って「床を取り上げて歩き出した」と書いています。御言葉の力によって。男の信仰によって。そう考えるのが自然ですが、実はそのように書いていません。聖書は行間の中に真理が隠されています。

ヨハネによる福音書は“この事”に対してヒントを残しています。ヨハネ 5 章 19 節と 24 節。要約すると、イエス様は父と同じことを行う。そして、イエス様を信じる事は、遣わした方を信じるということです。つまり、8 節と 9 節の行間は、“病者は神に遣わされた方の言葉通りに行った”です。

私達は御言葉の正しさと今の現実の狭間に苦しむことがあります。私達が目指すのはお互いを労わり合い、尊重し、そして一致する協力社会です。しかし実際は利己的に陥り、非難と争いを繰り返します。イエス様の十字架上で傷を負われたのは私達の傷を癒すためです。流された血潮は私達の罪を赦す為です。そしてよみがえりは私達を新しい生き方へ導く為です。新しい生き方とは互いに愛し合う事です。つまり、結論として私達の行いに力があるのではありません。神の恵み(イエス・キリスト)によって力を得るのです。その力とは愛と慎みの霊の事です(Ⅱテモテ 1:7)共に主を見上げて、前進して参りましょう。